

## 令和3年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	平岡善浩

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	【継続・追加】講堂での講義において、ステージ設備や客席の構造上、講義スタイル、試験方法の制約が生じた。加えて、出席管理の難しさについても指摘があった。また、太白キャンパスのメモリアルホールの講義環境について、音響の問題や板書がしにくいなどの指摘があった。
①	理 由	板書が出来ない、筆記試験が出来ない、学生とのオーラルコミュニケーションや、ペーパー配布回収が難しいこと、また、出席をどのように取るか、など、従来の講義方法からの変更を余儀なくされ、オンラインツールとの併用により担当教員が対応している。太白キャンパスのメモリアルホールについては、受講者数に比べてスペースが広く、後方部に着席されるとスクリーンや板書が見えない。音響も良くなく講師の声が聞こえにくい状況が報告されている。
②	課 題	教授方法の多様化や事前事後学修の増加に対応できるテキストおよび教材の効果的な提供ができていない科目。学生に対するレスポンス（質問対応、レポート返却）が丁寧でない科目など、教員の対応力に応じて受講生の評価に差がある。
②	理 由	テキストや教材は LMS 活用に伴い工夫が進み充実傾向にあるが、各回の講義内容や事前事後学修に適したレベルや量が考慮されるべき。またオンラインを活用した質問へのレスポンスも学生の意欲を高める傾向にあり、双方向コミュニケーションが望まれる。また講義動画を残して事後学修の参考にさせることも評価が高かった。
③	課 題	PC スキルの有無や高校の選択科目の違いによる知識量の違いなど、科目によっては受講生の初期条件の違いや得手不得手によって講義の理解度に差が生まれている。
③	理 由	科目の前提となる基礎を知らない学生に対する説明のために時間を取られ、授業計画の遅れが起こったりしているの で、そのような学生に向けた教材や参考図書の紹介などが必要。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	講堂での講義については講義実績も積まれたので、ニーズや使い勝手について意見を聴取し、学務課および財務課と相談、改善が必要などところについて要望を提出する。出席管理のための顔認証システムの導入などハードウェア整備による対応も要検討だが、個別ニーズ対応のために機器類の整備や操作が煩雑になるのは望ましくない。現状のLMSやオンラインコミュニケーション、授業方法の工夫などソフト対応でどこまでできるか、ノウハウの共有が必要と思われる。また、太白キャンパスのメモリアルホールの実情について、実際講義を行われた教員に状況を伺い、関係各署と改善策を図る。
②	学生の評価が高く、テキストや教材、双方向コミュニケーションなどを工夫している科目の教員に、その方法の紹介や簡単な模擬講義をお願いし、どんな点が学生の理解度や意欲を挙げているのか、マイクロFDなどを企画する。教員会議の機会などに簡単に説明していただく程度でも。
③	複数の科目が似たような状況にあるようなので、前提となる基礎スキルや基礎知識が足りない受講生に対しての対応について、講義内での説明もしくは教材配布、参考図書の紹介など、タイミングに応じてどのような指導が有効なのか、取り組みやアイデアを教員会議などの機会を利用して共有する。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

【教材・配布資料】網羅的で関連資料を集めたような資料だけでなく、各回の講義のポイントをわかりやすく説明し、演習と合わせた資料の評価が高い。【双方向コミュニケーションについて】個別質問→個別回答より、個別質問→全員に対して回答共有の方法の評価が高い。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

【教材・配布資料】【双方向コミュニケーション】【出席確認方法】における参考となる取り組みを、教授会（教員会議）もしくはマイクロFDなどの機会に少しずつ継続的に共有する機会を設けたい。毎月教授会もしくは教員会議の機会に10～15分くらい、マイクロFDの機会として実施するなど、準備も簡単に。

## 令和3年度後期 学群教育改善計画

<b>学 群 名</b>	看護学群
<b>学 群 長 名</b>	高橋和子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	1・2年生の必修の専門基礎科目で、授業の到達目標に対する到達度が全学平均より低い科目が多い(3.6ポイント以上、低い科目が7科目中5科目)。
①	理由	専門基礎科目は、評価項目や自由記載でも、授業に内容の難しさ、量の多さなどに関する記載が見られるが、授業外の学習時間は、他の科目よりも学習時間が少ない科目が多い。確実な知識を必要とする科目であるが、主体的な自己学習(予習・復習)につなげていない。
②	課題	わからないことがあっても、直接、教員に質問する学生は少ない状況がある。レスポンスカードへの記載をされていてわからないままでも、そのままにしている学生も見られる。
②	理由	学生の到達度の評価が低かった科目では、成績も低めとなっている傾向がある。理解が不足している場合に、担当教員に質問する等の理解をするための学習行動が不足していることが窺われる。
③	課題	Learning Management Systemを用いた授業のレスポンス登録が、適切に行われていないことへの指摘があり、登録方法の変更対応が行われた。
③	理由	授業への参加態度として、レスポンス登録等、周知された適切な対応を守れていない学生がいることが窺われ、学修の改善が求められる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門基礎科目の主体的な自己学習の強化</li> <li>・高校での生物、化学の学習の不足や理解度が低いことが、専門基礎科目の自主的な学習の妨げになっていることが窺われる。授業回毎のミニテストの活用や、継続的な学習に繋げる課題設定など、自己学習に取り組むことの習慣化を図る。</li> <li>・自己学習しやすい教材や、学習環境を整備する(デジタル教材の活用、スキルラボの整備等)。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員との双方向学習の強化(わからないことを他者に質問・確認できる学生の育成)</li> <li>・引き続き、レスポンスカード等の記載に対する授業時のコメントや、声掛けによるフィードバックを行う。</li> <li>・学生同士のグループ学習の機会を活用し、お互いに質問し合う体験ができる学習環境を設定する。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お互いに学習意欲を高め合うクラスづくり</li> <li>・学生間での協働作業の課題を設定するなど、グループへの貢献が求められる学習課題を活用する。</li> <li>・授業参加での不適切な態度を未然に防ぐ、教員および学生間での声掛けを強化する。</li> </ul>

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・Slido(オーディエンス・レスポンス・システムの名称)を用いた双方向型の講義形式。
- ・劇づくりを通したグループワーク。
- ・事後課題の内容設定とフィードバックの返却。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教授会や教員会議、専門科目代表者会議で、学生の学習状況および課題等に関する情報を共有する。
- ・看護学群のFD等を通して、学生の主体的な学習につながる支援方法を検討する。
- ・DX事業を通した新たな教材開発等により、学生の主体的な学習を促進する、学習環境の整備を図る。

## 令和3年度後期 学群教育改善計画

<b>学 群 名</b>	事業構想学群
<b>学 群 長 名</b>	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	講義・演習とも対面形式での授業を展開しているが、止むを得ない事情で遠隔に切り替え、あるいは併用をする授業を実施することがあった。
	理 由	コロナウィルス感染症の状況により、出席停止・自宅待機を課される学生が生じるため、遠隔での授業の部分的な実施があった。
②	課 題	価値創造デザイン学類の演習科目における、授業前後の学習の時間が他の科目群に比べて非常に多い。これは解決すべき問題というのではなく、演習系授業の自習と受講の組み合わせの特異な例として参照されるべき課題である。
	理 由	演習の授業時間には受講生が各自で制作や調査をした内容を持ち寄ってグループディスカッションなどを行い、個々の制作などの時間は授業時間外に確保する必要があるため。
③	課 題	シラバスに従った授業運営が概ねしっかりと行われているとの記載が多くみられ授業運営上の問題は見当たらないが、コロナ禍以降の対面・遠隔の授業体系、ハイブリッドな運営についてDXを活用した新たな取り組みを模索している段階であり、効果的な活用は課題がある。
	理 由	Webclass やその他のウェブを介した授業情報の開示や情報共有が充実していることから、学生も自身が受講している科目内容や学習の進捗管理がうまくいっている様子が推察される。また、新規の授業運営方法の採用なども積極的に行われているが、最近のDX活用についての宮城大学らしい取り組みへの挑戦の必要性も高まっている。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	コロナ禍において、宮城大学では早期に遠隔での授業対応を行い、授業を担当する教員や受講する学生、また事務局の対応においても遠隔授業での開講に関しては柔軟、かつ適切に行うことができるようになってきている。今後の科目運営上、対面授業の意義を再確認し、部分的な実施も含めた遠隔授業の取り扱い方について、さらに洗練された大学における授業運営が期待されている。
②	事業プランニング学類や地域創生学類においても同様の授業形態はあり、反転授業の採用なども進むとそのような傾向はさらに高まると考えられる。現状では講義時間を中心に学習に取り組み、各回授業のレポートや予習を授業時間外に行うことも少なくないが、演習との授業時間外での学習時間の差が大きく現れている。講義系科目などにおいても、オンデマンドの教材などを準備し、積極的に活用することで対面と遠隔の授業実施による成果の向上が期待されると考えられる。
③	大学の科目運営のIoT化が進み、それに応じたDX（デジタル・トランスフォーメーション）も発展していく可能性を示唆していると考えられる。令和3年度後半から4年度にかけて、こうしたDXに関わる文部科学省事業への申請、採択が実現していることから、本学の科目運営においても積極的にDX かに向けた取り組みを実施していくことが大いに期待されているといえる。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

コロナ感染対策を十分に施した少人数による科目運営（対面でのコミュニケーションを重視した授業など）がコロナ禍前の進め方と異なった方法で展開される場面が多くなってきている。（コミュニケーションを取るために遠隔によりゲストを招いての専門的な議論などを積極的に行うなど）

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

急速に進捗するDX化の流れの中で、宮城大学の各学群、各学類、コースの専門性や特徴を活かした科目運営の発展可能性が大いに拡大していると思われる。これらの授業開発技術や実践事例の検証などの情報を積極的に共有し、相互に授業内容の改善などを行うことができる教育・研究現場の実現に意欲的に取り組んでいきたい。

## 令和3年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上達志

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。  
 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	各問のすべてあるいは大部分において全学の平均を大きく下回る特定の科目が見受けられる。
①	理 由	効果的な教育がなされていない可能性がある。
②	課 題	週当たりの授業外の学習時間が全学の平均値よりも大幅に上回る科目が見受けられる。
②	理 由	一般的に学習時間が少ないが、特定の科目が過大となりバランスが取れていない。
③	課 題	「暗記＝勉強」との考え方から抜け出せない学生がいる。匿名でなければ授業に対する質問やコメントを出せない。
③	理 由	大学で学ぶことの根本的な意義が理解されていない。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	当該科目の担当教員がアンケート結果を認識しているか、また、何が問題となっているか、アンケートにある各項目についてどのように改善していくかそれぞれ確認を行う。
②	学習時間が全学の平均を大きく下回る科目については、予習・復習、課題についての見直しを要請する。また、同じく過大である科目については過度の負担となっていないか検証をお願いするとともに、問題があれば改善するよう要請する。
③	科目の性質によっては基本的事項を暗記する場合も多々あるが、可能であれば事象に対しての考え方や概念を求めるような授業の組み立てができないか検討を要請する。大学の授業において双方向性を担保する上でのディスカッションの必要性等を入学時ガイダンスやスタートアップセミナー等で強調して説明する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

○授業外の学習時間について、授業中に示す資料を受講者それぞれが読み込むことを想定していたが、実際にはそのような学習が行われていなかったようです。読むべき資料を示すだけでなく、それを踏まえた課題を提示したり、ディスカッションをさせたりするなど、授業外の学習がなければ授業内の学習が成立しないような設計を行っていきたいと考えています。例えば、配布資料に関する考察を求めるレポート課題や、事例の収集と共有、これらを元にしたディスカッションなどの実施を検討したいです。

○毎回受け付けていた質問に対して、講義時間の関係上、十分に答えることができなかったため、来年度下記の項目について継続的に取り組む。

- ・ 考えさせる小テストの継続
- ・ 分かりやすい資料の作成 (よりバージョンアップする予定)
- ・ 全員プレゼンテーションの実施
- ・ 最新の情報の提供 (特に映像資料)

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

上記の課題を解決する上で、例えば、学群FDや教員会議で共有して参考としてもらい、各教員の授業に対する工夫やスキルアップを要請する。